

# 歴史を生かしたまちづくりの推進について 策定

横浜市では昭和63年に「歴史を生かしたまちづくり要綱」を施行し、歴史的建造物の保全活用に取り組んでいる。平成24年度には、これまでの取組の現状と課題を踏まえ、横浜市都市美対策審

議会、横浜市歴史的景観保全委員、公益社団法人横浜歴史資産調査会所属の専門家などの意見をもとに、今後の施策の展開に向けた基本方針を「歴史を生かしたまちづくり」の推進について(案)に取り

まとめた。この案について、平成25年5月15日から市民意見募集を実施し、同11月には、意見や提案を反映した「歴史を生かしたまちづくり」の推進について」を策定した。

また、平成25年12月には、これに基づき、「特定景観形成歴史的建造物制度」を新たに創設するため「横浜市魅力ある都市景観の創造に関する条例(景観条例)」の一部を改正した。今後、平成26年7月1日の制度運用に向けて調整を進めていくとともに、その他の施策についても、具体化に向けた検討を進める。

## 特定景観形成歴史的建造物制度の創設

歴史的建造物は、建築基準法の施行以前に建てられていることから、改修等を行う際に建築基準法に全てを適合させることが困難となっており、保全活用を進めるうえでの大きな課題となっている。そこで、法的担保性の向上と建築基準法の柔軟な適用が可能となる「特定景観形成歴史的建造物制度」を「横浜市魅力ある都市景観の創造に関する条例(景観条例)」の改正によって創設し、歴史的景観の保全と賑わい創出による魅力ある都市景観の創造を図る。

### 対象建造物

登録・認定歴史的建造物等のうち、外観の保存と内部の一部保存を行いながら、内部の活用を推進する必要がある建造物。

### 制度の概要

- ①指定にあたっては、横浜市都市美対策審議会、歴史的景観保全委員の意見を聴くとともに、所有者の同意を得る
- ②指定を行う場合は、保存活用計画を策定
- ③所有者は保存活用計画に沿った建造物の管理を行うとともに現状変更等にあたっては事前に市長の許可が必要 など

### 【参考】制度の比較

	認定歴史的建造物	特定景観形成歴史的建造物	市指定文化財
根拠	歴史を生かしたまちづくり要綱	景観条例	文化財条例
保全範囲	外観	外観及び内部(一部)	外観及び内部
現状変更	届出	許可	許可
その他	-	建築基準法の適用除外が可能※	建築基準法の適用除外が可能※

※建築基準法の適用除外  
建築基準法の第3条第1項第3号の規定に基づいて、建築審査会の同意を得る必要がある。

## 課題と基本方針

### 課題1 保全活用の推進と建築基準法への適合

- ・所有者の実状に応じた外観保全と内部の活用を推進するため、改修等で課題となる建築基準法への適合について、適用除外が可能な制度の導入

### 課題2 所有者支援

- ・所有者の期待の高い助成制度を新たな制度導入や財政状況等を踏まえた見直しをしながら維持すること
- ・日常的な維持管理などへのきめ細かい支援や相続への対応

### 課題3 市民協働による歴史を生かしたまちづくり

- ・市民理解の向上を背景に、市民による活動の活性化、団体間の連携、人材育成等の施策や、取組の中心となる組織・財源等も含めた推進基盤の確立

### 課題4 ストックとしての歴史的建造物の活用等によるまちづくりへの展開

- ・文化的、観光的資源である歴史的建造物の魅力アップや活用による都市の活性化への取組み
- ・地域などでのまちづくりの様々な場面で展開できるような環境整備

### 課題5 持続的な保全活用の推進(法的担保性の向上等)

- ・認定解除事例や将来にわたって保全活用したい所有者の意向などを踏まえた、法的担保性を高めることで持続的な保全活用が可能な制度の導入
- ・市による取得だけでなく、所有者と使い手の結び付けやトラスト組織による取得などの仕組みの検討
- ・所有者と保全活用に合意していない重要な歴史的建造物への継続的な働きかけ

### 基本方針

歴史的景観や歴史的建造物の持続的な保全活用を、市民や所有者等とともに進め、横浜の誇り、魅力を守り、活かしていきます。

#### 方針1 所有者による保全活用の支援などの制度拡充の推進

##### 基本施策

- ①「特定景観形成歴史的建造物制度」の創設  
保全と活用を一体的に推進するため、外観保存と内部の一部保存などにより建築基準法の適用除外を可能とする制度を創設
- ②景観制度との連携  
景観法に基づく「景観重要建造物制度」の具体的な運用方法の検討など
- ③所有者支援制度の再構築  
助成制度の見直しと、日常的な維持管理などへのきめ細かい支援の導入やコーディネーター制度の創設など

#### 方針2 市民とともに守り、活かす取組の推進

##### 基本施策

- ④市民による取組の推進  
人材育成の推進や、調査・維持管理などのボランティア制度の導入、市民による活動支援の仕組みを検討
- ⑤市民協働の基盤の確立へ向けた取組  
様々な活動の相乗効果を図るための連携組織の創設や、市民協働を推進するために市民からの寄附が可能となるファンド(基金)などによる財源確保の方法を検討
- ⑥トラスト的手法による保全活用の検討  
相続時の寄附や借り上げなどによる保全活用を可能とするトラスト等の仕組みを検討など

#### 方針3 歴史的建造物を魅力資源として活用したまちづくり、賑わいづくりの推進

##### 基本施策

- ⑦ストックの活用によるまちづくり、賑わいづくりへの展開  
これまでの取組の蓄積を都市の活性化へ結び付けていくため、関係部署や所有者等が連携して活用方策の検討やPRを推進するとともに、歴史的景観や歴史的建造物を活かした都市の魅力向上方策などを検討
- ⑧市民に身近な歴史を生かしたまちづくりの推進  
区役所や学校との連携による広報普及の取組強化や、ガイドブック作成など地域での取組を進めやすい環境整備

## 歴史を生かしたまちづくり相談室 設置に向けて準備中!!

### 7月1日から歴史的建造物などに関する相談や情報提供を受け付けます。

横浜市の「歴史を生かしたまちづくり」が始めてから25年が経ち、歴史的建造物を取り巻く状況は大きく変化し、所有者や市民ニーズは多様化している。そういった状況をふまえ、さまざまな相談に対して柔軟な対応ができる「歴史を生か

したまちづくり相談室」の設置に向け、市と公益社団法人横浜歴史資産調査会(ヨコハマヘリテイジ)が協働で準備を進めている。歴史的建造物の所有者や市民・団体等を対象とし、専門家や市民活動団体、行

政などが連携し具体的な相談に応じる。例えば、「自宅が古いのが、歴史的価値があるのか分からないので調べてほしい」「建物は残したいが、相続が発生すると家族で持ち続けることが困難なので、良い方法はないか」「腕の良い職

人さんを教えてほしい」といった所有者からの相談や、「歴史を生かしたまちづくり」に寄付やボランティアなどで協力したいといった様々な声に対応していく。相談室はヨコハマヘリテイジへの設置を予定しており、平成26年7月1日開設を目指している。

#### 公益社団法人 横浜歴史資産調査会(ヨコハマヘリテイジ)とは?

歴史的建造物に係る専門家等の団体。昭和63(1988)年に「横浜市歴史的資産調査会」として発足し、以来20年間にわたり、横浜市と連携して歴史的建造物の調査や保全活用に関する研究を進め、「歴史を生かしたまちづくり」を推進している。歴史的資産の保全活用に関する調査研究のほか、セミナーや見学会等の普及啓発などを行っている。平成25(2013)年に公益社団法人となった。



# 大棧橋について

## ～鉄棧橋竣工120周年～

### 港

の要件を考えてみたい。まずは、一定程度の広さを有する「平穏な海面」の確保が必要だ。自然の地形が平穏な海面を保証してくれているに越したことはないが、横浜港では、防波堤を築造して、相当程度の面積の平穏な海面を確保している。現在、内防波堤と呼ばれているのがそれである。山下公園から望みできる赤い灯台は、港の入口の目印だ(北水堤の赤灯台に対向する東水堤の白灯台は、港口拡幅のため撤去されたが、山下公園地先の氷丸丸橋先端に移設されている)。つぎに、大型船が入港可能な「水深」が維持されなければならない。陸側では、繫船施設と荷揚場、上屋や倉庫用地のための「平地」も必要だ。平地は、港町を形成する後背地として、広ければ広いほど良いであろう。しかし、広い平地を控える港は、概して浅地で、深い水深を確保することが難しい。また、大河の河口に位置する港では、川が運んでくる土砂堆積により水深を維持することが難しい。逆に、水深の深い地形は、概して急峻な崖地に面し、平地をとることが難しく、埋立により平地を造成することもまた難しい。〈港〉としての横浜は、西に野毛山、東に山手の丘を背負っ

た海港的な性格を基本的な骨格としつつ、山手からは西に一定程度の平地を造りだしている砂州を延ばした河口港的な性格を併せ持つ。しかも、神奈川沖から東へ、中村川河口近くから北へ、海中に砂州が存在し防波堤を築造しやすい地形となっている。横浜は、いわば、いいところ取りの、〈港〉の要件を兼ね備えた、絶好かつ希有な(良港)なのだ。ペリーが、この〈港〉としての資質を見抜いていたかどうかは定かでないが、山手から〈横〉に長く延びた砂州の〈浜〉の中央部に上陸してきた(日本側がこの地に接所を設定したのではあるが)。横浜が開港場になると、この砂州の中央部から船着場としての突堤が二條突き出され、「波止場」を形成する。〈港〉横浜の原点である。この二條の突堤は、慶応二年の大火の後の横浜改造計画の一環として、貯溜まりを囲うように延長され、東の突堤は「象の鼻」と呼ばれるようになる。そして、「象の鼻」の曲端から〈横〉〈浜〉に直角に、延長約730m幅員19mの「鉄棧橋」が築造され、横浜港最初の繫船施設となる。パーマー(Henry Spencer PALMER)の立案に基づき、東及北水堤(内防波堤)と一体的に計画され、三田善太郎が棧橋主管となり、明治25(1892)年11

月着工、明治27(1894)年3月に竣工した(築港工事は、当初は神奈川県が、中途からは内務省臨時横浜築港局が所管し、「鉄棧橋」は完工後、内務省から横浜税関に移管され、翌明治28(1895)年4月から供用が開始された)。スクリーナイルで支持された「鉄棧橋」には4條の軌条が敷設され、横浜税関構内に連絡される。「象の鼻パーク」に保存されている4連の煉瓦造のターンテーブルは、この鉄棧橋に連絡する税関構内軌道の遺構である。「鉄棧橋」が竣工してから120年。この間、横浜「鉄棧橋」は、延長・拡幅・改造・改築を繰り返し、いつしか横浜「大棧橋」と呼称されるようになり、全面改築のうえ平成14(2002)年には、「くじらのせなか」と愛称される鋼板造の斬新な新国際客船ターミナルが完成した。ターミナルの建築設計は、国際建築設計競技により、ザエラ・ポロ(Alejandro ZAERA-POLO)とムサヴィ(Farshid MOUSSAVI)両氏のデザインが採用された。このリニューアルにより、「大棧橋」は橋樑構造ではなくなり、「大さん橋」と表記されるようになったが、横浜港の原点、横浜港港湾施設の起点としての地位を失っておらず、またこれからも決して失うことはないであろう。

歴史を生かしたまちづくり

# 横濱新聞

YOKOHAMA

## 第29号

平成26[2014]年  
3月27日発行  
Since 1989

公益社団法人 横浜歴史資産調査会 理事 堀 勇良

# 「歴史を生かしたまちづくり」25周年記念イベントが開催されました

平成25(2013)年11月10日(日)

## 昭

和63(1988)年に横浜市に「歴史を生かしたまちづくり要綱」の制定、また「公益社団法人 横浜歴史資産調査会(ヨコハマヘリテイジ以下:同様に記載)」の前身「横浜市歴史的資産調査会」が発足した。横浜市と両輪となってまちづくりの中で歴史的建造物を歴史的資産と位置付け、保全活用を行ない、今では横浜らしい歴史的景観を実感できるようになった。こうした取り組みは、平成25年11月で25周年を迎えた。これを記念し、11月10日(日)に「歴史を生かしたまちづくり25周年記念イベント」を開催した。

第1部「OPEN! HERITAGE 25 in 関内」では、関内地区25棟の歴史的建造物を午前10時～午後4時にかけて公開した。馬車道大津ビルやKN日本大通ビル[旧三井物産ビル]等通常非公開の歴史的建造物の公開もあり、参加者は興味深そうに見学をしていた。当日は建築系研究室の学生や神奈川県ヘリテイジマネージャー養成講座修了者、ヨコハマヘリテイジの会員、横浜市職員のボランティアにより、各歴史的建造物にて25周年記念のオリジナル「ヘリテイジカード」の配布も行なった。悪天候であったが、およそ60名の参加があった。

午後4時半からの第2部では、BankART Studio NYKに場所を変えて、「歴史を生かしたまちづくり」に貢献してきた功労者や歴史的建造物所有者の表彰式が行われた。



ボランティアによる建物ガイド(写真は旧横浜生糸検査所附属倉庫事務所内部)

## OPEN! HERITAGE 25 in 関内 公開施設一覧

- 旧関東財務局(★)
- 綜通横浜ビル
- 旧神奈川労働基準局
- 横浜銀行協会
- KN日本大通ビル[旧三井物産ビル](★)
- 三井住友銀行横浜支店
- 横浜情報文化センター
- 旧東京三菱銀行横浜中央支店
- 横浜都市発展記念館(◎)
- 神奈川県立歴史博物館(◎)
- 横浜地方・簡易裁判所
- 日本興亜馬車道ビル
- 神奈川県庁本庁舎(☆)
- 馬車道大津ビル(★)
- 横浜開港資料館旧館(◎)
- 旧富士銀行横浜支店(★)
- 横浜海洋会館
- 旧横浜銀行本店別館
- 象の鼻防波堤
- 旧横浜生糸検査所附属倉庫事務所(★)
- 赤レンガ倉庫
- 横浜第2合同庁舎
- 横浜税関本庁舎
- 横浜郵船ビル
- 横浜市開港記念会館

★内部公開あり ☆見学ツアーあり ◎入館割引あり

## 表彰者

- 故本多正道氏
- 故北沢猛氏
- はまぎん産業文化振興財団
- 認定歴史的建造物所有者

表彰式に引き続き、記念講演会とシンポジウムが開催され、工学院大学教授の後藤治氏からは「歴史を生かしたまちづくり25年の歩みとこれから」と題して、25年前に横浜で「歴史を生かしたまちづくり」が始まった頃から現在に至るまでの足跡を振り返り、如何に横浜市の取り組みが先進的なものであり、これが横浜ブランドになったかについて講演を頂いた。



表彰式(横浜歴史資産調査会宮村会長から本多初穂氏へ表彰状を贈呈)



後藤治氏(工学院大学教授)による講演

シンポジウムでは、鈴木伸治氏(横浜市立大学教授)の進行により、大野敏氏(横浜国立大学大学院准教授)から、郊外部の民家の保存や活用について、川崎市と比較した解説があり、兼弘彰氏(よこはま洋館付き住宅を考える会事務局長)からは、市民活動の観点から歴史を生かしたまちづくりに関わってきた取り組みの一端を紹介いただいた。山本博士氏(宮川山真葛ミュージアム館長)からは歴史を生かしたまちづくりへ企業としてどのように関わっているのかといった観点から、また網河功(横浜市都



シンポジウムの様子



故中尾良一氏の絵画展

市デザイン室長)からは、都市デザインという観点から歴史を生かしたまちづくりに取り組んできた足跡や、ヨコハマヘリテイジに期待することについて、それぞれ話題提供があった。

立場の異なる4者からの提起にコメントターの西和夫氏(神奈川大学名誉教授)、米山淳一(横浜歴史資産調査会常務理事・事務局長)からは、今後のヨコハマヘリテイジの役割や、「市民、行政、専門家、企業、皆で取り組んでいくことの大切さ」といったコメントがあり、将来に向けて取組みを進めていく上での貴重な意見交換の場となった。講演会・シンポジウムには約100名と多数の参加があった。

午後7時からの第3部では、横浜市の「歴史を生かしたまちづくり」に関わる多くの方々、オープンヘリテイジのボランティアも加わって、交流会を開催した。会場は、これまでの取組みの振り返りや、今後に向けての積極的な意見交換の場となり、大いに盛り上がった。また、同会場では、ヨコハマヘリテイジに寄贈された故中尾良一氏が描いた市内の歴史的建造物の絵画の展示と市内の歴史的建造物のスライド投影を行った。

## 25周年記念誌「横濱 歴史を生かしたまちづくりの25年」の発行について

ヨコハマヘリテイジでは横浜市と両輪になって25年に及ぶ「歴史を生かしたまちづくり」の活動を進めている。こうした成果もあり、横浜らしさを大切にきた都市景観が形成され、市民や来訪者に調いを与えている。

しかし、この裏舞台は紆余曲折の連続だった。「歴史を生かしたまちづくり要綱」制定以後、歴史的街並みをまちづくりに生かす先進地となってきた横浜。これまでに関わってきた多くの方々の執筆により、ドラマチックな25年間の足跡をまとめた珠玉の一冊。是非この機会に手に取ってご覧になっていただきたい。(一部:1,500円(送料別)／オープンヘリテイジにて配布した関内地区の歴史的建造物25棟のオリジナル「ヘリテイジカード」付き。売り上げは歴史的資産の保存活用へ使用。)

お問い合わせ・ご購入はヨコハマヘリテイジ事務局まで。(Tel/Fax:045-651-1730/Mail: yh-info@yokohama-heritage.or.jp)



特別公開のKN日本大通ビル[旧三井物産ビル]

# 旧横浜生糸検査所附属生糸絹物専用倉庫を横浜市認定歴史的建造物に認定

旧横浜生糸検査所附属生糸絹物専用倉庫は、「キーケン」の名前で親しまれた横浜生糸検査所の建築群の一部であり、横浜に集まる蚕糸荷物を一括管理するための専用倉庫として、大正15[1926]年に建設された。



旧横浜生糸検査所附属生糸絹物専用倉庫の外観

関東大震災後、横浜市復興会(会長 原富太郎)の陳情を受け、政府が約1万坪の敷地を確保し、生糸検査所、倉庫事務所、生糸絹物専用倉庫4棟を建設した。これらの建築群は遠藤恭太郎の晩年の大作であり、希少価値が高い。横浜市指定有形文化財として保存されている旧横浜生糸検査所附属倉庫事務所や横浜第2合同庁舎の低層部に復元

された旧生糸検査所(横浜市認定歴史的建造物)とあわせて、生糸貿易で栄えた横浜の記憶を残す遺構としても大変貴重である。また、みなとみらい21地区と開港の歴史を持つ関内地区との結節点としても、象徴的な景観を形成している。

倉庫は今後、周辺のまちづくりにあわせて一旦解体し、部材を活用した忠実な復元が予定されている。

## コンサートinヘリテイジ「ピアノが案内する横浜の歴史とまちvol.3」

主催:公益社団法人 横浜歴史資産調査会(ヨコハマヘリテイジ)

横浜市都市整備局の協力により、平成22年から「ピアノが案内する横浜の歴史とまち」と題して、歴史的建造物の空間や街の魅力を知っていただくことを目的にピアノコンサートを開催している。3回目の今回は、第8回山手芸術祭の一環として、平成26年2月6日(木)午後6時より、山

手の「ベリック・ホール」を会場に開催した。ピアニストの後藤泉氏によるドビュッシー「喜びの島」を初めとした、港や山手の丘にちなんだ楽曲に乗せて、街や建物の歴史を紹介した。また、(株)三陽物産の協賛で、ティータイムには勝サブレ、お土産には「横浜三塔物語」といった横浜の歴史にちなんだお菓子の提供もあり、参加者からは好評を得た。当日は54名の参加があり、参加者からは「かつての西洋館での生活や建物の魅力を感じることが出来た」との感想も頂いた。今後も引き続き、横浜の街や歴史的建造物の魅力を体験出来る機会を設けていく予定である。



当日の様子

## 二代目横浜市庁舎の基礎遺構発見!



工事中に見えられた基礎遺構

平成25(2013)年12月、横浜市庁舎(中区港町1-1)の緑化工事の際、二代目横浜市庁舎の基礎の一部が見つかり、現地で保全されることとなった。

二代目横浜市庁舎は、池田稔の設計、原木組(原木仙之助)の施工により明治44(1911)年6月25日竣工、同年7月1日に開庁した。外観は、煉瓦造のルネサンス様式で、全体を白丁場石の帯をまいている華麗な建物であったが、大正12(1923)年の関東大震災で被災し焼失した。

市制後の最初に造られた本格的な庁舎であり、横浜市制黎明期の公共建築のひとつとして貴重な遺構であるとともに、関東大震災の被災状況を伝える震災遺構としても貴重であると言える。



二代目横浜市庁舎(横浜都市発展記念館所蔵)

## ヨコハマヘリテイジセミナー「歴史を生かしたまちづくり—各地の歴史的景観保全の取り組みから—」

公益社団法人 横浜歴史資産調査会(ヨコハマヘリテイジ)

平成25年10月18日(金)～12月18日(木)

の5回にかけ、YCCスクール(横浜国立大学、横浜市立大学、横浜市芸術文化振興財団、横浜市)との共催で、「歴史を生かしたまちづくり—各地の歴史的景観保全の取り組みから」と題したセミナーを午後6時半から、ヨコハマ創造都市センター3階にて開催した。今日まで取組みを進めてきた県内外の各市町村にて、現場で動いてきた行政担当者やコンサルタントを講師に招き、取組みの意義や課題、今後の展開について紹介頂いた。述べて、およそ110名参加があり、会場からも積極的な質問や意見が挙がった。

講師と地域は次の通り。【横浜市:小田嶋鉄朗(都市整備局都市デザイン室 担当係長)・横須賀市:亀井泰治氏(都市部公共



神戸市 本田氏による講演の様子

建築課 課長補佐)・鎌倉市:奥山信治氏(まちづくり景観部都市景観課 担当係長)・小田原市:内藤英治氏((一社)日本メインストリートセンター 副理事長)・兵庫県神戸市:本田互氏(企画調整局デザイン都市推進室 担当係長)・コーディネーター:米山淳一(公社)横浜歴史資産調査会 常務理事・事務局長】

## 港北OPEN! HERITAGE

「港北OPEN! HERITAGE」は港北区内の洋館付き住宅などの歴史的な建物を特別公開し、普段見ることができない区の隠れた魅力を身近に体験できるイベントである。

区内には、地域の発展とともに、それぞれの時代を象徴する社寺・古民家・洋館付き住宅(西洋館)・土木遺構・近代建築などが建造され、そのいくつか所有者の方々の努力により残っている。

それらの魅力を広く知ってもらうために、平成23年度より活動を開始し、第3回(平成25年12月15日)は自由見学に加え、港北ボランティアガイドと巡るまちあるきツアーを同日開催し、当日は延べ1,080名が見学に訪れ、歴史的な建物や地域の



藤原東の洋館付き住宅の案内の様子

歴史にふれる一日となった。また、各公開施設では、所有者、よこはま洋館付き住宅を考える会、洋館付き住宅の施工に係った大工による建物の解説が加わり、地域の資源としての認識が更に深まるイベントとなった。(港北区政推進課 齊藤氏)

## —ガスタンク基礎遺構など— 横浜都市発展記念館中庭リニューアル

横浜都市発展記念館の中庭には、これまでも「国内最古のガス管」と「卵形下水管」が展示されていたが、今回「横浜市瓦斯局のガスタンク基礎」と「神奈川台場の石」の2つを新たに追加し、リニューアルされた。これは市内の洋菓子の製造販売会社(株)三陽物産(本社中区・山本博士

社長)が、同記念館を運営する市ふるさと歴史財団に500万円寄付したことで実現した。



横浜都市発展記念館の中庭(横浜都市発展記念館提供)

## 開港5都市景観まちづくり会議 横浜大会 10月の開催に向け準備中

今年10月に開港5都市景観まちづくり会議横浜大会が開催される。

開港5都市景観まちづくり会議は安政5年に開港港に指定されたという共通の歴史を持つ、函館、新潟、横浜、神戸、長崎の5都市のまちづくりに関する団体などが主体となって、取組事例の紹介や意見交換を行う会議。平成5年の神戸大会からはじ

まり、各都市持ち回りで開催してきた。昨年も函館で開催され各都市から多くの関係者が参加し、見学会などを通じて意見交換などの交流が行われました。

横浜大会は平成21年の前回から5年ぶりの4度目。2月には実行委員会(山口和昭会長)が組織され、準備が進められている。